

情報コーナーに新しい図書が28冊入りました！

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『1980年、女たちは「自分」を語りはじめた フェミニストカウンセリングが拓いた道』	河野貴代美著	幻冬舎	2023	146.8カ オレンジ	米国で生まれたフェミニストセラピーを日本でフェミニストカウンセリングとして育てた著者が、フェミニストセラピーに関する歴史や意義を紹介し、自らのカウンセリング観を記述する。
『江戸のキャリアウーマン 奥女中の仕事・出世・老後』	柳谷慶子著	吉川弘文館	2023	210.5ヤ アオ	武家屋敷に奉公する「奥女中」はどのような仕事に従事し、いかなる働きをしていたのか。職務や勤務環境、キャリアの様相、老後の処遇に関心を向け、実像を浮かび上がらせる。
『カティンの森のヤニナ 独ソ戦の闇に消えた女性飛行士』	小林文乃著	河出書房新社	2023	234.9コ アオ	第2次世界大戦中、約2万人のポーランド将校が虐殺された「カティンの森事件」。犠牲者のなかで唯一の女性被害者だった空軍パイロットの運命をたどる歴史紀行ノンフィクション。
『闘いの庭 咲く女 彼女がそこにいる理由』	シェーン・スー著	文藝春秋	2023	281.ジ アオ	柴田理恵、辻希美、北斗晶、一条みゆき…。決してあきらめず、自分を信じ、自らの居場所を作り出してきた13人の女性たちの生き方を紹介する。
『市川房枝、そこから続く「長い列」 参政権からジェンダー平等まで』	野村浩子著	亜紀書房	2023	289.1ノ アオ	女性の地位向上を訴え活動した市川房枝。働く女性の視点を持って制度基盤づくりを果たした功績や、女性のキャリア形成という点から足跡をたどり、その今日的意義を考える。
『塀の中のおばあさん 女性刑務所、刑罰とケアの狭間で』	猪熊律子著	KADOKAWA	2023	326.5イ アカ	急増する高齢女性受刑者。女性の犯罪は「窃盗」と「覚醒剤取締法違反」で8割以上を占め、累犯も多い。こうした状況の原因や背景を、女性受刑者や、そこで働く職員の声から探る。
『ジェンダーで学ぶメディア論』	林香里、田中東子編	世界思想社	2023	361.4ハ アカ	「メディアの思想」「インターネット空間」「マスメディア、ジャーナリズム」などをテーマに、メディアやジャーナリズムをめぐる様々な課題を、ジェンダーの視点から論ずる。
『性差別の損失 —なぜ経済は男性に支配され、女性は 排除されるのか』	リンダ・スコット著 月谷真紀訳	柏書房	2023	367.1ス ミドリ	世界的な規模で存在する、女性が経済的に不利な状況によって損失が生じているという事実の原因をデータ等によって明らかにし、女性の経済的エンパワーメントについて提言する。
『おしえてジェンダー！ 「女の子だから」のない世界へ』	公益財団法人ブラン・ インターナショナル・ ジャパン編	合同出版	2023	367.1ブ ミドリ	身近にある様々なジェンダー課題から世界の女の子が直面する問題までを取り上げる。女の子たちが性別による思い込みに縛られた世界から自由になることを願って書かれた本。

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『決定版 第二の性 Ⅰ 事実と神話』	S・ド・ボーヴォワール著 『第二の性』を原文で 読み直す会訳	河出書房新社	2023	367.1ボ ミドリ	「人は女に生まれるのではない、女になるのだ」という一文で知られる、1949年に刊行されたフェミニズムの古典といわれる書の復刊。 Ⅰでは、哲学、精神分析、神話、文学など、様々なジャンルを横断しながら、男性に支配されてきた女性の歴史を細解く。 Ⅱでは、現代の女性たちの生を分析する。
『決定版 第二の性 Ⅱ 体験 上』	S・ド・ボーヴォワール著 『第二の性』を原文で 読み直す会訳	河出書房新社	2023	367.1ボ ミドリ	
『決定版 第二の性 Ⅱ 体験 下』	S・ド・ボーヴォワール著 『第二の性』を原文で 読み直す会訳	河出書房新社	2023	367.1ボ ミドリ	
『エンタイトル 一男性の無自覚な資格意識はいかにして 女性を傷つけるか』	ケイト・マン著 鈴木彩加、青木梓紗訳	人文書院	2023	367.1マ ミドリ	ポスト家父長制的な社会である合衆国において、ミソジニーが守ろうとする家父長制的な規範や期待とは何なのかを、特権を付与された男性の様々な「資格」をキーワードに抉り出す。
『妾と愛人のフェミニズム 近・現代の一夫一婦の裏面史』	石島亜由美著	青弓社	2023	367.2イ ミドリ	「男性の視線のなかで女性が女性を価値づける」とは何なのかという問題意識のもと、妾・愛人の語られ方、文学作品・雑誌・新聞で形成されたイメージについて考察する。
『スウェンスカ・ヘムの女性たち 一スウェーデン「専業主婦の時代」の 始まりと終わり一』	太田美幸著	新評論	2023	367.2オ ミドリ	20世紀初頭に女性たちが結成した協同組合「スウェンスカ・ヘム」。専業主婦の時代の誕生と終焉、さらにジェンダー平等のための制度改革を導いた社会的意味を明らかにする。
『自転車と女たちの世紀 一革命は車輪に乗って』	ハナ・ロス著 坂本麻里子訳	Pヴァイン	2023	367.2ロ ミドリ	ヨーロッパと北米からアフガニスタン、インドを始めとする様々な国で自転車に乗ってきた女性たちの130年以上に渡る自由、エンパワーメント、革命の物語。
『パンでわかる包括的性教育 入学前にやっておきたい！ 将来のための 30のこと』	礪みゆき文 ニシワキタダシ絵	小学館 クリエイティブ	2023	367.9イ オレンジ	からだ・ジェンダー・同意・人権など様々な内容を含む包括的性教育。難しく感じがちな性教育を身近なものとして捉えることができるよう、多様性を感じられるパンを案内役として説明する。
『〈聞き書き〉新しい家族のカタチ 一子どもを迎える／育てる女性カップルたち』	遠藤あかり、大島寿美子著	寿郎社	2023	367.9エ オレンジ	女性カップルたちはどうやって子どもを迎え、どんな課題を抱えながら生活しているのか。インタビューから、話し手の経験を一人称の語りとして記述する。
『子どもも大人もわかっておきたい いちばんやさしいLGBTQ』	清水展人著	KADOKAWA	2023	367.9シ オレンジ	トランスジェンダーである著者が、LGBTQのことを知りたい人、当事者の人、身近にいる人など、多くの人に正しい理解を届けるために、やさしく解説する。
『50歳からの性教育』	村瀬幸浩、高橋怜奈、 宋美玄、太田啓子他著	河出書房新社	2023	367.9ム オレンジ	自分の性と他者の性を尊重するために、50歳からの人生を生きるうえで知っておきたいこと、見直したいこと、仕切り直したいことを、6人の専門家が書き下ろす。
『性暴力を受けたわたしは、今日もその後を 生きています。』	池田鮎美著	梨の木舎	2023	368.6イ オレンジ	性暴力により幼馴染を失い、自身も被害者となった著者が、法律の問題やトラウマとの闘いなどを綴った9000日に渡るノンフィクション。

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『女性の視点でつくるジェンダー平等教育 —社会科を中心とした授業実践』	國分麻里編著	明石書店	2023	375.3コ ギン	中・高・大学で行なった社会科と関連のある性教育や道徳に関する授業実践を取り上げ、成果と課題、教材を示し、その有効性を検証する。
『男社会をぶっとばせ！ 反学校文化を生きた 女子高生たち』	梶原公子著	あっぱる出版社	2023	376.4カ ギン	1990年代、地方都市の底辺校に生きた「女版野郎ども」の当時の姿と、40代半ばとなった教え子たちの生き様を、元教員が綴った手記。
『ポストイクメンの男性育児 妊娠初期から始まる育業のススメ』	平野翔大著	中央公論新社	2023	599ヒ キイロ	現在の父親の置かれた状況を「知識なし・経験なし・支援なしの三重苦」と表現する著者が、これからの男性育児の形として提唱する「父親3.0」とは。
『新版 ヒロインは、なぜ殺されるのか』	田嶋陽子著	KADOKAWA	2023	778.2タ チャイロ	『赤い靴』『突然炎のごとく』『愛と追憶の日々』などの映画作品を取り上げ、フェミニズムの立場から、そこに描かれた女性観と女性抑圧の形を読み解く。復刊にあたり最新ガイドも収録。
『女ことばってなんなのかしら？ 「性別の美学」の日本語』	平野卿子著	河出書房新社	2023	814.9ヒ チャイロ	日本にはなぜ女ことばがあるのか？ 「女ことば」を手がかりに、何気なく使っていることばをジェンダーの視点から見つめ直す。
『少女小説をジェンダーから読み返す —『若草物語』『秘密の花園』『赤毛のアン』 が伝えたかったこと』	木村民子著	亜紀書房	2023	909.3キ チャイロ	少女小説の3人の女性作家たちの人生をジェンダーの視点でたどることにより、作品に込められたメッセージを読み解く。
『さわってもいい？』	はまのゆか著 佐々木裕子監修	めくるむ	2023	Eハ ☆	子どもたちに、自分のからだは自分のもの。そして、一人ひとり同じように大切なんだということを伝えるための絵本。